

庄内さくら学園の取り組み

☆庄内さくら学園の取り組み☆

庄内さくら学園は豊中市初の義務教育学校として、令和5年に開校しました。
1年生から9年生までの児童生徒が在籍しており、その代表である「さくら会」が明るく楽しい学校にするために日々様々な取り組みをしています。その取り組みの一つを紹介します。



庄内さくら学園の取り組み

☆庄内さくら学園オリジナルの缶バッジ☆

庄内さくら学園では児童生徒の代表である「さくら会」が中心となってオリジナルの缶バッジを作成しました。
缶バッジに載っているキャラクターは庄内さくら学園のオリジナルキャラクター「さくドラ」です。
写真のように多くの児童生徒が気持ちを込めて丁寧に作成しました。



咲かせよう
あいさつの花



庄内さくら学園
オリジナル缶バッジ

庄内さくら学園オリジナル缶バッジ

オリジナル缶バッジ作成時の様子



皆で作成

☆さくら会にインタビュー☆

○今回、オリジナルの缶バッジを作成しましたが、どのような「ねらい」があったのでしょうか。

皆が1つのものを持つことで、統一感や共通感が生まれ、「皆が仲間」という意識をもつことができると考え、作成することになりました。

○初めて手作りで缶バッジを作成してみて、どうでしたか。

気持ちを込め、そして綺麗なバッジができるように集中して作りました。レバーを引くときに力が必要で大変でしたが、クラスメイトと一緒に楽しく作成することができました。

○オリジナル缶バッジを地域の方々にも配ると聞きましたが、地域の方々にどのような話をして渡すのですか。

地域の方々には「学校も含め、地域皆が仲間であり、皆と一緒に頑張っていきましょう」と伝え、渡す予定です。

○この活動をきっかけにして、学校や地域がどのように変わってほしいですか。

いじめがなくなってほしいということと、積極的に挨拶ができる学校や地域になってほしいと思っています。

○豊中市初の義務教育学校の児童生徒代表としてPRをお願いします。

庄内さくら学園は1年生～9年生までの幅広い子どもがいますが、それを強みとして、年齢が離れている人同士でもコミュニケーションをとって団結できるようにしたいです。人数が多いということはそれだけパワーがあるということなので、元気で明るい学校にしていきたいです。さくら会が企画する様々な行事を通して、皆が繋がって仲良くなり、「庄内さくら学園に通っていて良かった」と思ってもらえるように頑張っていきたいです。

☆担当の先生より☆

さくら会の目標は「学校の皆が幸せになること」です。さくら会の取り組みで「悲しい」、「辛い」と思っている人を減らすことができればと思っています。さくら会の皆さんにはそれを達成するだけの力があると感じています。

☆校長先生より☆

庄内さくら学園には「この学校を素晴らしい学校にしよう」と思っている子どもたちがたくさんいます。さくら会の皆さんは始まったばかりの庄内さくら学園の伝統の1ページを作ってくれています。そして、このさくら会のメンバーの姿を後輩や同学年たちが見ることで、彼らに引き続き、これからの伝統を少しずつ綴ってほしいと思います。さらに、地域にも目を向け、地域の方々と活躍することで、地域一体となってほしいです。豊中市初の義務教育学校として、これからも更に発展してほしいと思います。

第十五中学校の取り組み

☆第十五中学校の取り組み☆

第十五中学校では、生徒会執行部が主体となっていじめ予防を含む安心安全な学校づくりを目指しています。その取り組みの一つを紹介します。



第十五中学校の取り組み

オリジナルクリアファイル
2023

EVERYDAY!

ENJOY!



☆第十五中学校生徒会執行部の皆さんにインタビュー☆

○今回のオリジナルクリアファイルを配る時に、皆さんは在校生や先生方にどのような発表や呼びかけをしましたか。

全校集会で、「いじめ予防を啓発する15中オリジナルクリアファイルを作成します。」と伝えました。また、お昼の「いちご放送局」でも同じような案内をしました。

○オリジナルクリアファイルの裏面に今年度のスローガン「勇気を持って優情のハイタッチ ~笑顔と安心と共に~」と書かれていますが、この言葉はどのようにして生まれたのですか。

あいさつ運動と同じような活動で「ハイタッチ運動」というものを実施しました。ハイタッチをすることで友情や優しさが生まれてほしいという思いからこのスローガンが生まれました。

○第十五中学校では、安心安全な学校づくりのためにオリジナルクリアファイルを3年連続で作成していますが、今年度のクリアファイルでは3つのイラストが描かれています。それぞれのイラストに込められた想いをお聞かせください。

表面では「十五中の皆は仲がよい」ということを表現したかったので、男女がハイタッチしているイラストを描きました。また笑顔で明るい表情になるようにしました。裏面の左のイラストは男女が手を取り合って頑張っていることを表現しました。また、花を入れることで、華やかさをしました。裏面の右のイラストで頑張ったところは色です。手を伸ばしている女の子とその手を取ろうとしている人がいますが、女の子の方は明るく優しい色合いで描き、手を取ろうとしている人の方は暗めで「どよん」とさせました。このイラストのように辛そうにしている人を見つけたら、少しでも手を伸ばせる人が増えたらいじめは少なくなるのではないかと思います。

☆担当の先生より☆

この取り組みをすることで、いじめについて考える機会になればよいと思っています。また、安心安全な学校づくりを目指すためのきっかけにしてほしいと思います。

☆校長先生より☆

生徒会執行部は今回の取り組みを実施するにあたって、イラストを全校生徒に募集しました。全校生徒が安心安全な学校にするために主体的に活動しています。生徒たち自身で楽しい学校を作っていくほしいと思うとともに、「自治の力」が伸びていくことに期待しています。

インタビュー

南丘小学校の取り組み

☆南丘小学校の取り組み(令和5年度) ☆

南丘小学校は令和5年度に、代表委員会が主体となっていじめ予防活動における取り組みをしました。南丘小学校代表委員会には「どんなこともあきらめず 協力してかがやく 南丘」という目標があり、それを基にしたキャッチコピーとイラストを入れたオリジナルグッズを作成して在校生と先生方に配りました。



南丘小学校代表委員会の皆さん

南丘小学校代表委員会の皆さん

☆南丘小学校代表委員会の皆さんにインタビュー☆

○今回の取り組みでオリジナル定規を配る時に、皆さんは在校生や先生方にどのような呼びかけをしましたか。

最初に全校朝会で「いじめ予防の取り組みをします。」と伝えました。そして、実際に配る時にもきょうだい学級に「皆でいじめをなくしていきましょう。」と呼びかけました。

○オリジナル定規を配ることで、在校生や先生方はどのような反応をしてくれましたか。

自身の弟が「このような呼びかけのグッズがあったらいじめが減ると思う。」と言ってくれました。先生方からは「さすが高学年だね！」と言ってくれました。

○皆で取り組んで作成されたオリジナル定規が友達や先生方に配られてどんな気持ちですか。

在校生の皆が喜んでくれて良かったです。「ありのままの自分を大切にしてほしい。」という思いが南丘小学校の皆と共有できて嬉しいです。

○今回の取り組みを通して、南丘小学校がどのように変化してほしいですか。

皆が笑顔で過ごすことができる学校になってほしいです。いじめがなくなってほしいという気持ちはもちろんですが、皆が見えないところでのいじめもなく、いじめで苦しむ人がいなくなってほしいです。そして、皆が明るく楽しく、雰囲気の良い学校になるとともに、皆が協力して心が一つになってほしいです。

☆担当の先生より☆

6年生がリーダーシップをとってこのような取り組みを実施したことを素晴らしいと思います。このキャッチコピーのような温かい言葉とそれを基にしたデザインの定規を皆が持っていることが、学校として良いプレゼントになりました。日頃から目につくグッズでもあるし、実際にいじめがあったときでも「こんな取り組みをしたよね。」と振り返ることができます。在校生の皆さんがお互いに協力し、「いじめをなくしていこう」という雰囲気になってほしいと思います。

南丘小学校代表委員会の皆さんにインタビュー



イラストを描いた児童

南丘小学校オリジナル定規のイラスト



☆定規のイラストを描いた児童より☆

この定規のイラストを描くにあたって気を付けたことは、在校生の皆が馴染みやすいようなイラストにすることでした。明るいイラストになるようにたくさん色を使い、カラフルになるようにしました。また、キャラクターが笑顔で「グッド」としている部分を工夫し、「ありのままの自分を出す」ということを表現しました。

私が描いたイラストが南丘小学校のオリジナル定規として皆に配られることは少し恥ずかしいですが、南丘小学校の皆がこの定規を持つことで、いじめが減り、明るく楽しく、そして元気に過ごすことができれば嬉しいです。

☆校長先生より☆

子どもたちとともに初めの第1歩を歩みだしたところだと感じています。この取り組みが学校全体に広がり、子どもたちが今以上に「いじめ」について考え、「みんなで無くしていこう」という熱い気持ちを持ってほしいと願っています。これからも取り組みを進め、誰もが過ごしやすい学校になるようにしていきたいと思います。

☆教頭先生より☆

今まではいじめについて教師から児童に向けて教えるという形でした。しかし、今回の取り組みを通して、子ども自身が発信して、双方向で取り組むことが大事だと感じました。

小曽根小学校の取り組み

☆小曽根小学校の取り組み(令和5年度)☆

小曽根小学校では、令和4年度に引き続き、最高学年の児童が主体となって、安心安全な学校づくりの一つであるいじめ予防活動を企画・実施しました。令和4年度はオリジナルの下敷きを作成し在校生に呼びかけましたが、令和5年度はオリジナルクリアファイルを2種類作成し、「SMILE UP PROJECT」として活動しました。



小曽根小学校児童の皆さんと先生方

☆小曽根小学校オリジナルクリアファイルの裏面を紹介します☆

仲良く過ごす自分が好きだよ！

大丈夫。君は一人じゃないよ。いつも一緒にいるよ。

僕は楽しい。君は悲しい。なぜ君は悲しいのかを考えよう。

人の気持ちをはなかなかに分らないから。だから聞いてみよう「どうしたの？」と

「大丈夫」の勇気ある一言で救われる！

誰かが動かないと動けない人がある。

誰もが安心する言葉の一つ。「安心していいよ！一緒にいるからもう大丈夫だからね。」

たった少しでも口を開くと、いじめが生まれてくる。まずは口を開くのをやめよう。

あの子イヤ。この子イヤ。そんなことを言う君はもうイヤ。

世界中に「笑顔・希望・勇気」を。

自分らしく笑えること。それが本当の幸せこと。

自分の心に正直に！

自分大切にできるから。仲間も大切にできる。自分を好きになるから。仲間も好きになる。自分を信じるから。仲間を信じることもできる。誰もが安心する言葉の一つ。まずは自分から始めよう！

いじめがなくならない。心の居場所が広がる。きつとみんな、その方がいいはず！

やっついこと。ダメなこと！！表では笑っていても、裏では泣いている人がいるんだよ。

悲しい時はど、悲しい時はど、「大丈夫」と聞かれたら「大丈夫じゃない」と言ってしまうよ。

笑顔は自分も周りのみんなも元気になる。

泣いてもいいよ。みんなを助けてくれる人は必ず近くにいるから。

つらい言葉を心をつづける。書いたら消える。だから書くのをやめよう！

人は必ず一人ではない。みんなを支えよう！みんなが支えよう！みんなといることを楽しもう！

悲しい時、つらい時は友だちに相談していいんだよ。きつと「大丈夫！」の一言で救われるから。

いじめは、やめるのではなく始めない。

安心できる場所ってどんな場所だろう？きつと、自分らしく居られる場所。

幸せって何？それは友だちの笑顔を見て、自分のことのようにうれしくなること。

笑って笑みふり。そんなものは今日で終わりの。大丈夫？と聞いたあなたは今日からヒーローだ！！

笑顔が増える言葉って何だろう？書けるだけで、楽しくなってくるよ。

「笑顔」で幸せは測れない。悲しみをかくすための笑顔だってあるから。

小曽根小学校のオリジナルクリアファイルの裏面には最高学年が考えた「大切な言葉や思い」を載せています。これらの言葉は6年生一人ひとりに書いてもらい、集めてまとめたものです。6年生の皆は「小曽根小学校をよりよい学校にするために頑張って書こう！そして1年生から5年生にも伝えて、皆で仲良く過ごしていこう！」と一致団結して取り組みました。この取り組みを応援してくださった先生方からは、「小曽根小学校の最高学年として素晴らしい言葉を考え、在校生に呼びかけてくれました。小曽根小学校がさらに温かい空気に包まれたと思います」というお話がありました。

「SMILE UP PROJECT」の頭文字を取ると「SUP（サップ）」になります。これはスラング英語で「What's up?（どうしたの?）」を表します。小曽根小学校の最高学年は、「どうしたの?」を合言葉にして、児童同士が声を掛け合い、皆がお互いを気にかけて毎日を明るく楽しく過ごしていこうということを在校生に伝えました。

クリアファイル裏面

☆小曽根小学校の皆さんにインタビュー☆

○小曽根小学校のオリジナルクリアファイルを配る際、皆さんは在校生や先生方にどのような発表や呼びかけをしましたか。

全校朝会で「SMILE UP PROJECT」を実施すること、その内容について説明しました。「明るい学校にしていこう」ということと「一人にいる友だちがいないようにしていきたい」と話をしました。

○オリジナルクリアファイルを配ることで、在校生や先生方はどのような反応をしてくれましたか。

先生方からは「いじめがなくなってほしいね」と言ってくれました。また、ある1年生から「このファイルのおかげで、あまり仲が良くない友だちと話をすることができました」と言ってくれました。

○今年度は2種類のクリアファイルを作成しましたが、それぞれのイラストを描くにあたって、難しかったことは何ですか。また、それぞれのキャッチコピーについて教えてください。

緑色のクリアファイルの方は、安心感が出るように人の表情、笑顔を意識しました。また、まわりの色使いも温かくなるように工夫しました。
白のクリアファイルでは、人が支え合ったり手を取り合ったりすることで、そこに思いや優しい気持ちが生まれるということを表現しました。
これらのファイルのキャッチコピーも6年生が書いた言葉をまとめたものであり、皆の思いが詰まっています。

○最高学年である皆さんが作成したクリアファイルが在校生や先生方に配られることで、どのような学校になってほしいですか。

小曽根小学校に関する全ての人がお互いを大切にしてほしいです。そしてクリアファイルのキャッチコピーにあるように、一人ひとりが支え合って温かい学校になってほしいです。

インタビュー



↑6年生が全校朝会で「SMILE UP PROJECT」の説明をしている様子

☆担当の先生方より☆

このオリジナルクリアファイルをきっかけにして、皆が何を大切にしていけるかを考える機会にしてほしいです。最高学年として後輩に思いを伝え、その思いを後輩たちが引き継いでいくことで学校全体がいつも笑顔であってほしいです。
今回のオリジナルクリアファイルのようなグッズは皆の思いを振り返るきっかけになるので、これからも活用し続けてほしいです。

☆校長先生より☆

小曽根小学校では2年連続でこの取り組みをしています。今年の取り組みは昨年度よりもステップアップしていると感じます。
写真にあるように6年生が1年生から5年生に向けて直接話をするのは少ないので、今回の活動が在校生にとって記憶に残るものになると思います。
皆の思いを繋げることが大事であるので、この活動が小曽根小学校の歴史の1ページとなり、次の学年に繋いでいってほしいと思います。

SMILE UP PROJECT

第四中学校 オリジナルの幟で毎朝あいさつ運動！



第四中学校
生徒会執行部の皆さん 幟のデザイン

豊中市立第四中学校では数年前から生徒会執行部の生徒が主体となって、毎朝あいさつ運動を行っています。

令和5年度には第四中学校オリジナルの幟（のぼり）を作成し、それを活用しながら毎日気持ちのよい声で「おはようございます！」と声をかけています。



あいさつ運動の様子

第四中学校のあいさつ運動

第四中学校生徒会執行部の皆さんにお話を伺いました

○今年度、第四中学校オリジナルの幟（のぼり）を作成し、その幟を活用してあいさつ運動をしているとのことですが、あいさつ運動の活動について何かしらの変化はありましたか。

幟を一新したことで幟への注目度が高まり、在校生が振り向いてくれることが多くなりました。その結果、今まで生徒会執行部からあいさつしても素通りだった生徒があいさつを返してくれるようになりました。

○オリジナルの幟を使ってあいさつ運動をすることについて、在校生や先生方はどのような反応をしましたか。

「幟が変わったね！」、「幟が明るくなったね！」と声をかけてくれました。

○オリジナルのイラストを作成するにあたって難しかったことはなんですか。

背景のグラデーションをデザインすることが難しかったです。「ぼかし」の機能を使って柔らかな色のデザインになるようにしました。また、幟に載せるキャラクターを学校で公募して選考し、それらの模写をして最終決定するまでが大変でした。

○今回作成したオリジナルの幟を活用してあいさつ運動をすることで、どのような学校になってほしいですか。

あいさつをきっかけにして、在校生同士がコミュニケーションをとることにつながってほしい。そして、みんなが仲良くなり、まとまったりしてほしいです。また、第四中学校に「温まる四中」というスローガンがあるのですが、この言葉のとおり皆が温かい気持ちで学校生活を送ってほしいです。そして、今回の幟は明るい色を使ってデザインしたので、幟を見ることで心も温まってほしいと思います。

○担当の先生より

第四中学校区では地域の方もあいさつ運動をしているので、これからは今回作成した幟を共有するなどして、地域の方と連携してあいさつ運動を広めていきたいと思っています。

○校長先生より

デザイン等、生徒たちが自ら作成した幟を使うことにより、あいさつ運動に対してより親しみがわくとともに人と人との絆が深まって行くとと思います。これからも継続して活動してほしいと思います。

第四中学校生徒会執行部からのお話

☆第十七中学校生徒会執行部における取り組み☆

第十七中学校では、令和3年度（2021年度）から生徒会執行部が主体となって「いじめ予防」を含む「安心安全な学校づくり」を目指す取り組みを行っています。在校生がオリジナルのイラストをデザインし、それを基に昨年は下敷き、昨年はのぼり、今年はメモ帳を作成しました。これらを安心安全な学校づくりの啓発グッズとして活用し、在校生の皆さんがよりよい学校にしていけることができるように意識を高めることを目指しています。



第十七中学校における取り組み

☆第十七中学校生徒会執行部にインタビュー☆

今回のオリジナルメモ帳を配る際に生徒会執行部の皆さんは在校生や先生方にどのような発表や呼びかけをしましたか。
→第十七中学校を皆でより良い学校、そして安心安全に過ごすことができる学校を目指していこうと呼びかけました。
オリジナルメモ帳を皆に配って、在校生や先生方はどのような反応をしてくれましたか。
→すごく好評で、「ちょっとしたことを控えるのに使いやすい」と言ってくれました。
今回の取り組みを通して、どのような学校になってほしいですか。
→学校目標である「人とのつながりを大切に」「Seventeen best friends」を目指し、仲間外れがない、皆仲が良い学校になってほしいと思います。

☆校長先生より☆

生徒たちには人とのつながりを意識し、それぞれのつながりを大切にしてほしいと思います。「いじめる」、「いじめられる」というようなつながりではなく、皆が「お互いに応援し合える」という関係づくりを目指してほしいです。今回のように生徒たちが主体的・自主的に動くということは大変すばらしいと思っています。これからも生徒たち自身が自分たちでよりよい学校を作っていくことができるように頑張してほしいと思います。



デザインした生徒

☆オリジナルメモ帳をデザインした方々にインタビュー☆

今回の第十七中学校のオリジナルメモ帳は原案を描いた方とそれを基にしてデザインをした方の2人の力を合わせて完成しました。原案者とデザイナーのお二人から今回の取り組みについてお話をお伺いしました。

オリジナルのイラストを描くにあたって、難しかったことはなんですか。また、イラストの中に「面白くない」と書かれています。どのような気持ちで描かれましたか。

（原案者）：イラストでは瞳を工夫しました。文言については「いじめは面白くない」ということを率直に伝えたいと思い、この文言になりました。

（デザイナー）：原案に沿って描くことが難しく、「いじめ」という題材を伝えるためのデザインにすることも難しかったです。皆がこのイラストを見て「いじめは面白くない！」とストレートに感じてほしいです。

ご自身が描いたイラストが第十七中学校のオリジナルグッズとして配られてどんな気持ちですか。

（デザイナー）：配られるときはこれでみんなに「いじめ」が良くないということが伝わるかドキドキしました。みんなに「いじめは面白くない」ということが伝わってほしいです。

seventeen best friends

～ありのままに接し合える最高の仲間たち～



豊中市立 第十七中学校

オリジナルメモ帳

☆担当の先生より☆

生徒に「いじめは絶対にあってはならない」という意識をさらにもってほしいと思います。また、今回の生徒会執行部の積極的な活動を見て、自分たちで第十七中学校をよりよい学校にしていけるという思いを持ってくれればうれしいです。

第十七中学校オリジナルメモ帳

大池小学校 安心・安全プロジェクト 『すてきなところを見つけよう』

大池小学校 安心・安全プロジェクト 『すてきなところを見つけよう』

〇スローガン

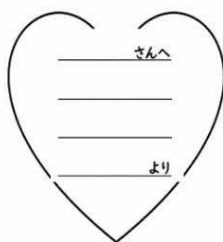
『広がるやさしさ 広がる友だち』

〇目的

活動をきっかけに、友だちの素敵なおところに気づいて伝えたり、自分の素敵なおところを伝えてもらったりすることで、安心・安全に過ごせる学校づくりの意識を高める。

〇活動内容

- ・啓発グッズ（ノート）と「広がるやさしさカード」を配布。計画委員による説明。
- ・期間 12/4（月）～12/15（金）
- ・「広がるやさしさカード」に素敵なおこと感じたことを記入、友だちへ渡してあげる。「広がるやさしさノート」に貼り付ける。
- 全員のノートにカードが貼られたら「広がる友だち」認定証を表彰。



すてきなところを見つけよう

豊中市立大池小学校では「いじめ予防」を初めとした「安心・安全プロジェクト」という活動・取り組みを行いました。この活動は大池小学校の児童がイラストを描いてオリジナルのノート「やさしさノート」を作成し、そのノートを活用して安心安全に過ごすことができる学校づくりの意識を高めるといいます。

大池小学校計画委員会に所属している児童が、主体的になって企画・計画し、在校生や先生方への案内、全校集会での発表等を行いました。

児童たちは、それぞれの素敵なおところをハート型の用紙「やさしさカード」に書き、それを直接渡して思いを伝えることで学校全体が温かくなるように主体的に活動することができました。

大池小学校計画委員会児童とイラストを描いた 児童に突撃インタビュー！！



〇今回の取り組みにおいて、計画委員会の皆さんは在校生や先生方にどのような発表や呼びかけをしましたか。

大池小学校の「安心安全プロジェクトを通して、友だちの素敵なおところを見つけ、それを伝えていきましょう！」と呼びかけました。

〇今回の取り組みをすることで、どのような学校になってほしいですか。

一人ひとりが相手のことを考えて行動してほしいです。また、思いやりや優しさを大切にすることを意識して、いじめや喧嘩がなく、皆が安心して勉強したり遊んだりできる学校になってほしいです。

〇今回の取り組みについて、在校生の皆さんや先生はどのような反応をしてくださいましたか。

皆が興味をもって注目してくれ、「すごいね!」、「頑張ってるんだね!」と声をかけてくれました。また、自身の弟が「こんな取り組みをしているなら、自分も計画委員会に入って頑張りたい!」と言ってくれました。この取り組みをして本当に良かったと思います。



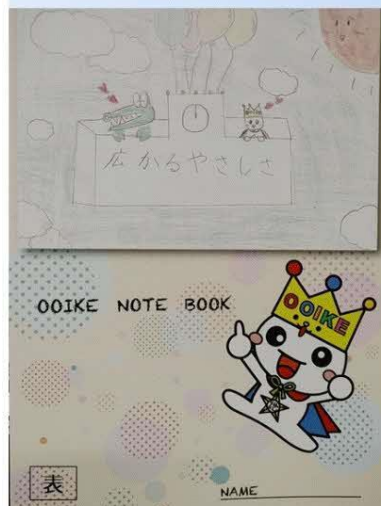
担当の先生より

この取り組みをすることで、児童の意識が変わったと感じています。これからも友だちの素敵なおところをどんどん見つけて、お互いを認め合ってほしいと思います。

校長先生より

子どもたちが自分たちで「どのようにすれば素敵なお学校になるのか」ということを考え、それを実践したことが素晴らしいと思っています。この取り組みのおかげで、学校全体が温かい雰囲気になったと感じています。

大池小学校オリジナルノート「やさしさノート」を紹介



☆イラストを描いた児童に聞きました☆

○オリジナルの絵を描くにあたって難しかったことは何ですか。また、イラストの中に「広がるやさしさ」、「広がる友達」と書かれていますが、どんな気持ちで絵を描きましたか。

学校のイラストを立体的に描くことが難しかったです。また、絵で夜を表現することも難しかったです。工夫したところは、星の輝きを出すことです。星が綺麗に輝いて見えるように描きました。「広がるやさしさ」と「広がる友達」という言葉については「一人ひとりがやさしさを大切にして、その優しさで皆が繋がってほしい」という想いから書きました。今回の取り組みの中でイラストを描いて、自身の絵が載ったノートが大池小学校のオリジナルグッズとして皆に配られたことにととても嬉しく思いました。



大池小学校オリジナルノートを紹介！

少路小学校の取り組み

☆少路小学校学級代表における取り組み☆

- ①全校児童が平等に本音で話し合うことができるように「本音でTalk」という委員会目標を設定
- ②安心安全な学校づくりのため、「本音でTalk」という言葉を入れた定規を作成し、全校児童に配布
- ③「本音でTalk」BOXを設置し、児童の悩み事等を聞き、高学年がアドバイス



少路小学校学級代表の児童お二人にインタビュー！！

Q.定規に「本音でTalk」という言葉のデザインを入れていますが、作成するうえで難しかったことは何ですか。

A.「本音でTalk」という言葉の意味を絵などで分かりやすく表現することです。

Q.オリジナルグッズの定規を配布して、在校生の皆さんはどのような反応をしてくれましたか。

A.「デザインが可愛い！」と言ってくれました。とてもうれしかったです。

Q.いじめ予防も含めて、安心安全な学校づくりを推進していく中で、先生方からどのような声かけをしてもらいましたか。

A.まず、いろんな先生方から褒めてもらいました。今後6年生が卒業しても、この「本音でTalk」に込めた思いを先生も一緒に引き継いでいってほしいと言ってくれました。

児童会担当の先生より

学校内で困っている児童はたくさんいたので、その悩み事を大人が聞くのではなく、実際に学級代表の児童が話を聞き、返事をしてあげることが素晴らしい取り組みだと思いました。悩んでいる児童にすれば高学年に相談できる手段があって、先生にも言えて、お家の人にも言えて、まだ1つ相談できる場所ができたと感じています。本当にすごく頑張ってくれました。とても感謝しています。

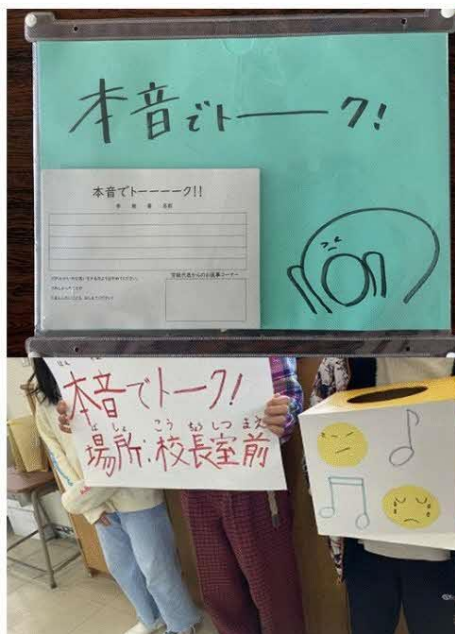
校長先生より

児童会の「本音でTalk」の活動や取り組みについて、子どもたちが主体になって、自分たちで考えて、動いて、繋がる、そして少しでも改善につなげていくという体験になってほしいという想いで子どもたちを見守っていました。また、子どもたちの中に「一人も取り残さない」という気持ちが育ってほしいという想いもありました。

子どもたちにとって少路小学校が安心して、つながりをつくり、明日がもっと楽しみと思える学校になってほしいです。

1

「本音でTalk」定規を作成し、みんなが素直に話せる学校へ



☆少路小学校学級代表における取り組み☆

「本音でTalkBOX」について

少路小学校では児童の悩み事や相談事をしっかりと聞くために学級代表が「本音でTalkBOX」を校長室前に設置しました。

このBOXを設置した理由は、在校生の相談できる場所を一つでも増やしたいという気持ちからです。

上の写真にある「本音でトーク!!」の用紙に悩み事や相談したいことを書き、BOXに入ると、この用紙の右下にある「学級代表からのお返事コーナー」の欄にアドバイスが書かれて手元に返ってきます。

この用紙には悩み事や相談事だけではなく、嬉しかったことや自慢したいことがあり、誰かに伝えたいことがあれば、その内容も聞いてくれるというものです。

このBOXを設置してから、たくさんの用紙が入るようになり、学級代表はそれらの悩み等に丁寧に回答したり、アドバイスをしています。

このような素晴らしい取り組みをしている少路小学校の今後の取り組みに大注目です！！



学級代表が在校生のお話を聞くことができるように「本音でトークBOX」を設置